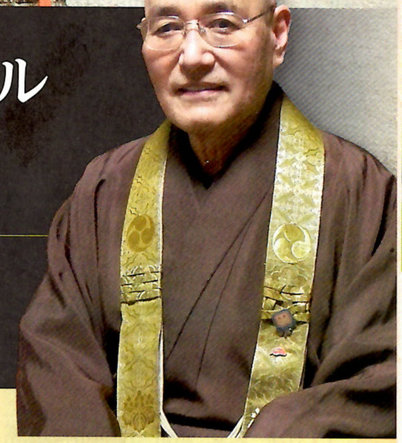
巻頭特集

ウィル・リメンバー・エープリル

イン・妻沼2019

聖天様御本尊、23年ぶりのお開帳

熊谷市最大の観光ポイント国宝・妻沼聖天山。秘仏である御本尊の錫杖が、4月16日(火)から22日(月)に御開扉される。23年ぶりで戦後4回目、21世紀初のビッグイベントに活気づく妻沼。その「平成最後の月」4月をプレビューする。



妻沼聖天山歓喜院院主鈴木英全さん。昭和17年生まれ、熊谷高校から東京教育大(現・筑波大)文学部、東京大インド哲学梵文学科を卒業し昭和40年に住職就任

御本尊さまはなぜ秘仏？ 静かな実盛ブームも

「おれがやったんだ、おれがやったんだ、っていうんじゃなく、見えないところからわたしたちを守るのがご本尊さまのお志し。それを、『そうはおっしゃらずに、たまにはお姿を拝ませてくださいよ』というのがお開帳(御開扉)なんです」(鈴木英全院主)

聖天様の秘仏ご本尊さまは、1197(建久8)年造の鋳銅製の錫杖で総高51・8センチ。真ん中に双信の歓喜天・二童子の像が鋳出され、いつもは錦で覆われた歓喜天は写真撮影もできない。御開扉は不定期で、戦後は1952、78、96年に続いて23年ぶり。では、なぜ今年の4月なのか。

「開創840年に気がつき、世話人会で賛同いただいたのが29年7月です。春の例大祭の4月が恒例ですが、今回はたまたま平成最後の月になりました。

平成8年の前回も、歩いて歩いてって急がされて、目をつむって拝んでたんでよく見られなかったという人もいました。昭和の頃は、もっとのんびりやってたんですがね」

聖天様開祖は、熊谷次郎直実とともに源平の戦いで活躍した斎藤別当実盛。御開扉を機に、ちょっとした実盛ブームが起こりつつある。

6月9日には妻沼中央公民館大ホールで、熊谷歌舞伎の会による歌舞伎『実盛物語』が公演予定。2～3月には妻沼まちづくり工房主催の全4回「実盛公の生涯と功績を学ぶ会」も開講された。

「お開帳の意義は三つ。秘仏の本尊を拝すること、長井庄・妻沼十二郷(妻沼全域と熊谷・行田・深谷の一部を含む)のみなさんに聖天山が地域の本尊であることを確認して子孫に伝えてもらうこと、実盛公のことをよく知ってもらうことなんですよ」

英国出身の文化財専門家来沼 商店街メニューも充実

「付祭(つけまつり)」と呼ばれる関連イベントも華やかだ。祭礼で注目は、神仏分離の明治以来という「神式祭礼」。

歓喜院聖天堂美装化事業の担当者による現地確認。右から3人めがアトキンソンさん、4人めが鈴木院主、5人めが山下さん

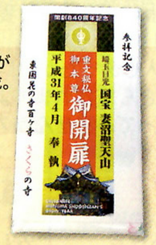
「世界的に『宗教融合』といわれる時代ですから。神主さんに頼んだら、快く引き受けてくれました」(鈴木院主)

男女児90名募集の稚児行列はじめパレードや、石舞台では『薩摩琵琶実盛公』など多数。本殿向かって右側のお祭り広場では地元の学校やグループが音楽演奏やダンスのパフォーマンスを披露し、縁結び通りをはさんだイベント広場では熊谷出身のボクシング前世界フライ級チャンピオン木村翔選手のトークショーや市内人気店の販売などが行われる。

文化財関連の注目は、初日16日(火)の鈴木院主と聖天堂の修復・保全を担当する小西美術工藝社社長、英国出身の「金融アナリストの経歴を持つ文化財スペシャリスト」デービッド・アトキンソンさんの対談。コーディネーターを務める江南文化財センター山下祐樹さんは、「妻沼聖天山の歴史に想いを馳せながら、対談を通じて世界基準の文化遺産の保存と活用について発信できたら」と期待する。

商店街も全力投球だ。期間中は計49店舗で「縁結びメニュー」「縁結びサービス」を展開。市内出身のガラス作家「せきゆうこ」さん制作の風鈴が、各店の軒先で「おもてなし」する。

御開扉記念ガーゼ手拭(税込500円)をリリースするのは、明治16年創業の老舗小池呉服店。店主の小池茂さんは、「聖天様オリジナルは、平成の大改修完成時以来です。お開帳で参拝に訪れた人の思い出に、と商品化しました」という。



創業明治16年 小池屋呉服店さんが「ガーゼ手拭い」を限定250枚作成。1枚500円(税込)
熊谷市妻沼1423　☎588-0009

御開扉記念ガーゼ手拭いご購入の方に、平成の大改修竣工記念に作ったガーゼ手拭いを先着100名様に寄贈とのこと

荻野吟子、古建築リノベ、ピンクリボン… 聖天様だけでない妻沼の宝

エリアを聖天様から妻沼地区全体に、時間も4月以降に広げると、トピックはさらに豊富だ。

新年度から荻野吟子記念館をNPO法人化した観光ボランティアガイド「阿・うんの会」が運営開始。偉人の生涯を描いた映画『一粒の麦 荻野吟子の生涯』が、数々の社会派映画を手がける86歳の山田火砂子監督・現代ぷろだくしょん制作で4月にクランクインし、この秋に公開される。

近年地方都市でさかんな古い建物の活用。「金子古家具店」「まほろぼ」などが相次いでオープンし、「Y's cafe」がNHKの人気番組『ふるカフェ系 ハルさんの休日』で5月に紹介される。西田園の自家焙煎ほうじ茶専門の「焦がし屋武一」は、3月に埼玉県の「空き店舗ゼロリノベーションコンペ」で優秀賞を受賞した。

グローバルなムーブメントとの連動もある。くまがやピンクリボンの会が10月のピンクリボン月間に、市との協働「熊谷の力」で聖天様境内「平和の塔」などでのライトアップを実施。ラグビーワールドカップ2019開催日には、妻沼運動公園からのパーク&バスライドも予定されている。

荻野吟子…若村麻由美／志方之善…山本耕史

映画『一粒の麦 荻野吟子の生涯』。3月22日の製作発表記者会見(提供:現代ぷろだくしょん)。主演は若村麻由美さんだ

さまざまな動き、課題から 新時代の妻沼へ

平成最後の月と重なった大イベントで活況の妻沼。東中、西中の校歌に「大利根」が歌われるように、荒川が近い旧熊谷市、江南、大里とは異なる利根川流域独特の文化がある。

合併以降に限っても、県北最大のクラフト系イベントとなった「妻沼手づくり市」、日本一のグライダー滑空場を舞台にしたとされるマンガ『ブルーサーマル』人気、市内唯一の在来大豆「妻沼茶豆研究会」の発足、そして何といっても聖天様の国宝指定と縁結びのパワースポットとしての関連イベントなど、市内でもっとも元気なエリアという地区外からの声も多い。妻沼アイデンティティをみなおす民間の試みとして、昨年12月に市内の若手民俗学者・矢嶋正幸さんによる「俳諧から読み解く妻沼の古い歴史」も開催されている。

課題も少なくない。国指定文化財・旧坂田医院のように活用が進まない財産もあり、昨年10年間の活動にピリオドを打った「めぬまチャンネル」は数年にわたるワークショップを経て、熊谷市などへ景観や環境の整備に関する7項目39事項の要望書『「めぬま」における観光の要望について』を提出している。

こういった民衆の力こそ、江戸時代に庶民の浄財を集めて聖天様本殿を建てた妻沼の伝統。国宝である聖天様本堂が大改修完了後も後継者の技術伝承も目的として修復作業が続けられているように、まちへの声は常に自由に発されるべきだ。新たな妻沼への節目となる平成最後の月のご開帳。熊谷市民の記憶に、いつまでもとどまるように。

【取材・文　小林 真(こばやしまこと)】